

令和7年度 学校関係者評価報告書

学校名：あいち福祉医療専門学校

1 学校目標

・凡事徹底!! 不易流行!! S-S-K about Well-beingを目指すために、今こそ”学生を真中にした教育”を実践しよう!! 「みんなで仲良く楽しく」をモットーに仕事をしよう!!

1) 情報の共有・協働 2) 出席率98%超、退学率5%以内、進級率・卒業率92%超 3) 国家試験合格(資格取得)率90%以上、年度内就職率100%

4) 総定員充足率80%(352名)以上の確保 5) PT・OT科電子テキスト・モ/グ/サフ/リ運用/C・M科実習支援システム導入 6) MicrosoftTeams活用

7) 校友会運営協働 8) 学生会正式発足 9) C・PT・OT実習指導者研修会/PT・OT多職種連携他校間交流 10) 高・専接続が期待できる講座実現(C科初任者研修)

11) 実務者研修・認知症力フェ・総合確保基金研修(「健康プロモ」啓発研修)・出向ガイダンス・模擬授業・学校見学会の積極的受入

12) 新設学科(国際介護学科:1年課程)の開設 13) 関連外部団体とのかかわり 14) 学園展開の海外との教育連携とおよびインターンシップ実施

15) 外国人留学生の積極的受入と教育力向上 16) 入学生195名(入学定員88.6%)【C:80,M:30,PT:35,OT:30,K:20目標】

17) AOエントリー者112名確保【C:25,M:24,PT:30,OT:28】 18) Webを有効活用した広報促進、OCリピーター確保

19) 経費削減、教育研究経費、管理経費の在籍者数に応じた意図的削除 20) 養成施設指定規則に準拠する教育環境整備および管理の計画的実施

21) 学科改編及び組織改革検討 22) 業務見直しと効率化 23) 学校目標ロードマップ共有/各数値目標階層的把握 24) 情報の共有・協働を見える化

学校目標に対する評価・意見

- ・若者人口が減少し外国人も多い中、学生の特長をふまえたような努力が見られ素晴らしいと思います。
- ・実習生も当法人に来ていただいておりますが、施設への説明も連携もとてもよく取れており、学生さんへの先生の教育努力と心配りは、細に入り微に入り感心するばかりです。
- ・退学率が低いことは素晴らしいと思います。教員の皆様の日々の努力には頭が下がります。いかに学生さん達の意欲を維持向上出来るかをしっかり対応されていると思います。
- ・外国人留学生の日本語学力の向上を期待したいと思います。
- ・社会貢献や地域貢献に積極的に取り組んでいる姿勢がとても素晴らしいと感じます。こうした活動を通じて多くの人の目に留まり、あいち福祉医療専門学校の魅力を広くアピールできる良い機会になると思います。学業との両立は大変かと思いますが、これからも頑張ってください。
- ・校長先生をはじめ、報告を聞きながら教職員の皆様が学生を思う気持ちが伝わってきました。
- ・数字に表すことのできない、学生ひとり一人の学生生活を大切にしていることも分かりました。
- ・卒前教育だけでなく卒後教育に関連する取り組みも重要だと思います。
- ・卒業後も学校が頼れる環境づくりを期待します。
- ・教育の先には就業という場面があります。卒後の処遇(給与・社会的地位)への目標についても取り入れてはいかがでしょうか。
- ・2024年度のPT・OT国家試験の合格率が落ちているが、今までのやり方+基礎学力の低い学生への対応策が目標では。
- ・2024年度のPT・OT入学生が減少しているが、今後増やしていくためには今までの取り組み+で何か取り組みの目標はありますか？
- ・全体的に退学率の減少につながったのは、教員の先生方や関係者の精神的なフォローがあったためだと思いますので、今後も継続していただけたらと思います。
- ・今後の介護需要の増加に伴います専門校としての存在意義が高まってくると予想されますが、同時に国際化ならびに少子高齢社会における学校運営の難しさが高くなっていくことも容易に予想ができます。安定学生数の確保を進めていくことと、経費の節減を同時に行っていくという御校の取り組みと目標は素晴らしいと思います。

2 学校自己評価報告書について

学校自己評価報告書基準	学校自己評価報告書についての評価点の平均		
	自己評価の結果が適切か	改善に向けた取組みが適切か	今後の改善方策が適切か
基準1（教育理念・目標）	3.9	3.9	3.9
基準2（学校運営）	4.0	3.9	3.9
基準3（教育活動）	4.0	3.9	3.9
基準4（学修成果）	4.0	3.8	3.9
基準5（学生支援）	3.9	3.8	3.9
基準6（教育環境）	4.0	3.9	3.9
基準7（学生の受入れ募集）	4.0	3.9	3.9
基準8（財務）	4.0	3.8	3.8
基準9（法令等の遵守）	4.0	4.0	4.0
基準10（社会貢献・地域貢献）	4.0	4.0	4.0
基準11（国際交流）	4.0	3.9	3.9

3 今後の改善意見

- ・社会へ福祉に従事する人々を少しでも多く送り出す為にも、頑張ってくださいと共に大きな期待をしております。
- ・学生さんも忙しく時間も無いかもしれませんが、希望者がいればインターンシップの取組みがあってもよいかと思います。実習とは違った経験につながるかと思います。
- ・介護福祉学科で2年次に日本人学生と留学生とクラスを分けることを検討とありましたが賛成です。私も1年次は混合が良いと思います。1年で日本人、留学生の交流で関係性が出来れば、2年次にクラスが分かれても交流はつづくと思います。1年次に日本人・留学生を分けてしまうと、2年次になった時に、日本人学生と留学生の交流は少なくなってしまうと思います。
- ・学習習慣が身につけていない学生が増加しており基礎学力の低下が顕著となっているとあったが、SNSの普及などで学習に集中しづらい環境が広がっている現代では、学校の努力だけでは限界があるかと思います。既に実施されていることと存じますが、学ぶ楽しさや達成感を実感できる教育環境の整備が学習習慣の定着や基礎学力の向上につながると思うので、引き続きよろしくお願いいたします。
- ・外国人留学生の受入れは大変かと思います。教職員の方々の無理のない範囲でお願いします。
- ・授業評価アンケート、卒業生に対する職業能力アンケートはとても良いと思います。集計等は大変かと思いますが続けていただきたいと思います。
- ・少子超高齢化社会など社会構造の変化にともない社会保障制度の在り方も問われている。今後は医療・介護・福祉に求められる人材として、予防・健康に対応できる教育も重要である。
- ・また、障がい児（特に発達障害）に対するニーズも高く、今後の教育に学内教育・学外実習にも取り組む必要が生じる。
- ・入学基準の引き下げもあるが、今後の多職種学科の学生へのフォロー体制を作ってみてはいかがか。将来の多職種連携につながらないか？
- ・基礎学力の低い学生の為に、夏休みなどを国家試験対策で課題などを学校で取り組める環境ができればと思います。
- ・オープンキャンパスの周知を今後もSNSなどを使って広く出来ると良いのではと考えます。
- ・学生のうちから給与面の待遇などを就職活動時に知るのではなく、知った上での進路選択できるようなカリキュラムもあって良いかと思われる。卒業生や現場の実習のバイザーや第一線で働く療法士の話を開ける場も、実習の前にあると実習に対する取り組み方もかなり変わると考えられます。
- ・介護福祉学科による地域貢献の活動を他の学科の学生も協力して参加できるとよいと思う。
- ・今まで継続して運営されてきた結果として医療福祉養成校としての地位を確立されていると思います。今後も介護や医療福祉分野の地位の向上に比例する

形で御校の地位とブランド力が更に高まっていくことを期待しております。

- ・施設管理者の立場からは「特定技能1号」の方を対象とした介護福祉士合格に向けた通信教育などのコースがあると嬉しいです。アフターフォローを軸とした多年修学による介護福祉士養成カリキュラムなど興味があります。

4 今後の改善方策

- ①指定規則により、教育内容及び学習時間が定められ、本校独自の特徴ある教育を編成することが困難な中、委員ご指摘のとおり視野を広める観点から、インターンシップ等をどう取り入れていくかが課題となる。可能な範囲でカリキュラム編成の見直し等を図りたい
- ②介護福祉学科の留学生のクラス分けについては、どの形が一番良いのかを常に模索している。入学人数により対応が変化していくため、毎年、次年度の入学予想数に合わせた対応を検討していく
- ③入学生の学力の低下は年々顕著になっている。学習習慣の無い学生に対し、医療福祉知識の修学を指導していくことは困難を極めるが、常に最善の教育効果が出る創意工夫をしていく
- ④授業評価アンケート、卒業生に対する職業能力アンケートは現在、その内容および実施方法を修正企画中。現状に即したアンケートとなるよう進めていく
- ⑤今の「詰込教育」からの脱出や、特定の進路にしか進めない指導内容は、現在の学生気質にそぐわないことや、本校の独自性を打ち出していくために厳しくなっているためカリキュラム変更を検討しているものの、広い意味での医療・介護・福祉業界に求められる人材の育成にまで、修学年数で教育できるのかは疑問が残る。国家試験の合格率を上げ、且つ「人材」の教育がどこまでできるか、常に検討していきたい
- ⑥業界の待遇については常にアンテナを張っている。入学時より、そういった点についても学生に対して情報提供していく。卒業生の講和会等も、学生会やキャリアセンターから発信するアイデアも盛り込んでいきたい
- ⑦多職種連携を理学療法学科、作業療法学科の間で他校と開催することができたが、介護福祉学科についても同様のプランを企画する
- ⑧国際介護学科については、今年度開設ということで、まだ手探り状態となっている。「特定技能1号」での就職採用となることで、卒後の負担がどの程度になるかを見届ける必要がある。就業後に困らないよう、在学中にできることを今後も検討していく